

コヴェントリーⅡサイクル劇 (XI)

橋 本 侃

第十四演目 ヨセフとマリアの裁判

(1)

観想 皆さん、これまでを纏めます、お聞きください。

どのように「アヴェ」が成就されたのか、これまでの場面でお判りですね。

天使が言いました、「メデタシ、聖寵充ち満テル方、主ハ御身トマシマス。

汝ハ、女ノ内で祝セラレタモウ」と。

エリザベスが言いました、「汝ハ女ノ内ニテ祝セラレタモウ、

汝ノ胎内ノ果実モマタ」と。

5

このようにして、教会はマリアにイエスを加えました。

かくして、一年にわたって聖母の詩篇を日々に唱える者は

一万八百年の間、罪を許されます。

(2)

それでは、われらの題目をもつと先に進めましょう。

マリアはエリザベスとずっと一緒におりました、

優に三ヶ月の間、勧められましたように、

心から神に感謝しながら。

ああ、善き主よ、どんな家柄だったのでしょうか、

これらの子供たちと、その母親たちが属するのは？

マリアとエリザベス、イエスとヨハネと、

それに、ヨセフとザカリアのいる家系とは？

(3)

さて、聖母はそうのようにじっとしていました、

ヨハネがその母から産まれ、

ザカリアが口をきくようになるまで――

この男は押し黙ったなり、言葉を失っていたのです。

ザカリアとエリザベスについて預言されているとおりでした。

二人は「祝セラレタモウ」の祈りを唱え、

この「祝セラレタモウ」に加え、「我が心、主ヲ崇メ」も唱え、最初は神殿で祈りを捧げたのです。

(4)

すべてを終えると、罪に捕らわれていない聖母は、そのあとで、お別れをなさいました、

エリザベスとザカリアに。

ヨハネに接吻され、祝福を与えられました。

ところで、もう少し皆様にご辛抱をいただいて、

これまで以上の謙虚さを込めてお礼を申し上げますが、

これ以降も、われらにご支援を賜りたく存じます。

舞台の上で不都合なことを申し上げるようなことになりましたら、

われら一同、皆様のご配慮をいただきたいと思われますし、

キリストの尊い御受難に待み、

お出かけ戴き、ご覧いただくご親切が報われますようにお祈ります。

この場を「アヴェ」で始めましたので、「アヴェ」で終わらせます――

メデタシ、天ノ女王、われらが聖母に向かって歌を捧げます。

召喚吏の前口上

写本左七十四頁

(1)

みんな、道を明けてくれ、俺の主人の主教さんを通してやってください、法を施行すべく判事席に座らせてやってください。

俺のほうは、この場で召喚の役を勤めます——

この帳面に記載されている奴らを召喚することになります。

次の者たちは出廷しなくてはならない、

俺を取り囲んでいるお前たち、よく注意し聞くように。

お前たちみんなを召喚する。

いいか、必ず出廷するのだぞ。

ジョン・リジャードンとジェフリー・リジャイル、

牛乳屋のマルキンに、いい男のメイビル、

頑丈者のステイヴンに、しゃれ者のジャック、

それに、馬具屋のソーダーだ。

(2)

鋳掛け屋のトムに、鈴屋のベトリス、

焼き物師のペイルズに、井戸掘りのワット、

信心足らずのシムに、頭網屋のケート、

それに、肉屋のバーソロミュー、

菓子屋のキットに、宝石屋のコレット、

いい格好のジルに、美人のジェーン、

白目細工のポールに、熊手職人のパール、

それに、矢羽職人のフィリップ、

(3)

調理師のクレーンに、煉瓦屋のドーヴィー、

嘘吐きのルースに、信用ゼロのレティス、

粉屋のマイルズに、駄菓子屋のコール、

加えて、パン屋のビートと赤顔のロビンもだ。

それに、いいかい、財布の中身がよく鳴るようになっておけ、

さもないと、申し立てもうまく行かないかもしれない。

神の呪いを俺の頭上に下してもいいから、

急いで法廷に来るように。

酒醸造のブーディングに、吊網屋のシビリー、

お天気屋のメグに、バネ屋のサビン、

瞬き娘のティファニーも、何があつても間違いなく来い――

今日が法廷の開かれる日だ。

「ココデ、まりあトよせふトノ「無罪ノ宣誓ノ場」ガ始マル。第一ノ中傷者ガ言ウ。」

(1)

中傷者一 これはこれは、みなさんが神に救われますように、

写本七五頁

ここにいらつしやるのは信仰篤き方々ですから。

わたしがなんと呼ばれているか、みなさんはご存知か？

今日の日まで、ご存知なかつたはずです――

あちこちを歩き回っていたんですがね。

でも、わたしが来たのはいいことをするためでないんです――

人の悪口を言うのがわたしの仕事なんです。

陰口をさかんに叩くのがいますが、血のつながった弟なんです。

(2)

その陰口叩きも、ここに来ているはずなんだが、

ああ、神様、奴がここにいるといいんだが。

誓つて言うが、そう、あえて言えばだ、

俺たち二人がそろって姿を現せば、

もつともつと中傷をでっちあげてやるのに、

一時間のうちに、この町中に、

この一千年のうちにでっちあげられた以上の中傷を。

それがだめなら、あっちこっちで、あんたたちを呪ってやろう。

(3)

おお、さてもさても、見えたぞ、

俺の弟だ、ほら、奴だ。

よく来てくれた、愛しのきょうだい——本当のことだから、そう言うんだ。

その優しい口に接吻させてくれ。

中傷者二 ありがとう、きょうだい、嬉しいね、

今日のうちに会えてほんとに嬉しいぜ。

中傷者一 俺もまったくそうだ、きょうだい——

口で言い表せないぐらいだ。

(4)

でもよう、きょうだい、お願いだ、

ここにいらっしやる皆さんに名前を教えてやったらどうだ。

この命を掛けてもいい、名前が分かったら、

あんたを崇め、その偉大な名前を口にするはずだ。

中傷者二 ありとあらゆる楽しみを台無しにする

「陰口叩き」が俺の名だ。

多くの場所で、大いに知られている。

左七五頁

30

中傷者一 誓って言うが、俺も同じ種を播くが、
種によつては、悪運に見舞われるかもしれない。

(5)

中傷者二 陰口叩きよ、いいか、よく聞け、ぜひとも皆さんに
お聞かせするのだ、

つい最近に起こった目新しい出来事を。

中傷者一 少し前のことだ、ある事が起こった。

それを聞いたら、たっぷり笑えるはずだ。

なぜなら、本当に、だんだんイヤな気分になってくるぜ、

それについて知ったら。

中傷者二 それについて言いつのれ、というなら、

その種を播く労は惜しまねえ。

40

35

(6)

中傷者一 兄貴、神殿に娘がいた。

確か、マリアと呼ばれる生娘だ。

場所があのような場所だけに、聖女に見えた。

人が言うには、聖天使とかが食べ物を運んでくる、とのことだ。

娘は絶対に男と交わらないという誓いを立てた。

純潔に清い生娘のままで一生を終わる、と。

そんな誓いなど、どうでもいいんだが、だんだん腹がせり出して、

あんたのや、俺の腹ぐらいに、でかくなった。

(7)

中傷者二 誓ってもいい、そのとおりだ、あの老いぼれヨセフが

その娘にぞっこん惚れたおかげで、

娘の美しさを見た途端、

一緒に暮らすまで、我慢できなかった。

中傷者一 いや、いや、もつとひどく報いたのは娘のほうだ。

娘は他の誰か若くて生きのいい奴のほうに惚れちまい、

ついには、そいつの脚を自分のに重ねちまって、

ご老人をひどく嘆かせた、というわけさ。

(8)

中傷者二 本当だ、すべてはありうることだ、

娘は見た目には初々しいし、美人ときてる。

それに、俺の見たところ、あんなに美味そうなんだから、

若い男だったら一口味わってみたいという気になるはずだ。

中傷者一 あんなに光り輝いて若くて、

あんなにいい体をしている娘はな、

たいていの場合に、尾っぽが軽くて、

こつちの下のをムズムズさせるものよ。

(9)

中傷者二 あの老いぼれの寝取られ男はうまく騙されたわけだ、

あんなにぴちぴちの娘と一緒にたばかりに。

今はもう、他の男の子供の父親役を勤めなくちゃあならないし、

そんな子供に、汗水たらして、餌をやらなくちゃならない。

中傷者一 若い男のほうが寝床で元気だ、

年寄りよりは若い娘にとっていいに決まってる。

これから引き出される道理はこうだ――

かくして多くの男が寝取られ男になるのだ。

(ココデ、主教あびざかるハ二人ノ立法学者ト聴衆ノ間ニ座リ、まりあニタイスル誹謗ノ正当性ヲ中傷者たちニ向カッテロニスル。)

(10)

主教 よく聞け、お前たち、恥知らずなことをなぜ言うのか、

あの善なる生娘、美しい娘マリアについて？

その名を汚すとは、呪われよ！

あのように清く正しい生活を送っている方について、

あのように口を極めて誹謗するとはなにごとか――

わしの気を重くさせおって！

偽りの叫び声を挙げるのをやめるよう、ここに厳命する。

なぜなら、わしと同じ血筋にあるからだ。

左七六

80

(11)

中傷者二 あの女があなた様のご親戚筋に当たるとしても、

子供を孕んで腹が膨れ上がっているのですぜ。

ご自身あの女をここに呼び出されてご覧になるがいい――

75

あたしの言ったことが本当かどうか判るはずです。

中傷者一 主教様、あなたのおためになるから、ご忠告いたします。

あんたを悲嘆に暮れさせたくないんですよ。

でも、皆さんが聞きたがっているのは、

あの美形がどんなことを言うか、ですよ――

その、われらが美しき娘は今や身重なんです。

(12)

律法学者一 お前たち、言うことに気をつけるのじゃ。

お前たちが開陳に及んでいることにたいして忠告しておく。

後日になって、今の話が偽りだと判ったら、

ひどく後悔することになるはずだから。

中傷者二 主教様、あの娘は確かに善良で可愛いし、

器量はいいし、明るいし、きれいな娘さんだ。

それに、喜んでわれらに手を貸すことに同意するはずで、

一人の寝取られ男を法廷の高い席に座らせることに。

(13)

律法学者二 よくまあ、ペラペラと喋る奴だ。

神の前で、お前たちの虚偽をあばいてやりたいものだ。
 慨嘆の極みだ、あの娘がそのように法を踏みじり、
 そのような罪を犯したのであれば。

主教 このような重い話を聞くと、わしの胸は痛む――

そのような邪まな、ふざけた話だと。

そのような誹謗を受けることが明白になったりしたら、
 自分の不行跡にあの娘はひどく後悔することだろう。

(14)

召喚吏のシムよ、急いで行って、

名を正式に読み挙げてから、ヨセフとその妻に伝えなさい、

今日、出廷して、

その不名誉を宣誓して晴らすように命じ、

二人の犯した恥辱を耳にすると、

胸が重苦しくなっている、と伝えなさい。

もしも二人が罪科がなく清いのであれば、

ここに来て、身の潔白を証言するように、と伝えなさい。

(15)

召喚吏 かしこまりました、主教様、呼んでまいりましょう、

この法廷に姿を現すように。

それに、二人に会ったら、

法廷に直ぐにいて欲しいと伝えましょう。

道を明けてくださいな、皆さん、傍を通らせてください。

ここを通るのは有徳の士ですぞ、

どうやら礼を尽くすことをご存知のようだな。

渋々でもいいから、頭巾は取った、取った！

(16)

俺の目の前ではそれなりの敬意をはらってくれなくては困る。

さもないと、正直なところ、無理にそうしてもらおうからな。

あんたたちの名を帳面に書き入れたら、

ケツまで震え上ると困るでしょうが。

ですが、いくら報酬をいただくのなら、

このでっかい牙を引つ込めることにしましょう。

金貨でも銀貨でも構いません。拒むようなまねはしません――

およそ召喚吏ならやるように、俺も公平にやるんだから。

(17)

こんにちは、ヨセフ、きれいな連れ合いさんと一緒に、
ご主人の主教様がお呼びです。

もう知れ渡っているぞ——お前の家には

寝取られ男がいて、弓は毎晩、ひん曲がっていると。

矢を放った奴はそれなりの報いを受けるはずだ。

きれいな娘さん、あんたなら、その話が一番上手にできるはず。

さあ、正直なところ、あんたの本意を言つてご覧よ、

例の弓の名手はあんたをさんざ喜ばしたのだろうか！

(18)

マリア 天の神が証人です、

そのような罪深い行いなど考えたことはありません。

わたしは純潔そのものの生娘です、

この世に生まれた時と同じままです。

召喚吏 他に証人は見つからないだろうな、

どの男の目にも、お前が子供を孕んでいるのは明らかだ。

二人ともぐずぐずしないで、

130

135

左七七

140

俺と一緒に主教様のところへ行くように厳命する。

(19)

ヨセフ 一緒に主教様のところへゆこう、

わしらが無罪であることは間違いなく宣言できる。

マリア 全能の神がわたしたちの友となりましょう、

真実を裁く時には。

召喚吏 そうか、そのように非難声で言い訳をするのか。

女自身の罪が不名誉をもたらしたのだ。

だが、身を低くして頭をたれさせてやる、

有罪と決まり、非難されることになったら。

(20)

それゆえ、さあ、行くのだ、「寝取られ男」という名のお前、

主教様がお前の暮らし振りをお調べになる。

お前も行くのだ、いい女のアঁタも。

身ぎれいな女房だということだが、

言葉を尽くして説明することもなからう、

もしもお前が俺の女房だったら、

お前の鼻面を呪ってやろう――

あんな陰謀を俺のために仕組んだとしたら。

(21)

ご主人の主教様、ここに連れてまいりました、

ご命令によって、この善良な夫婦を。

それに、見たところ、罪づくりの女は、

立派な子供のためにまもなく子守唄を歌わなくてはならないようだ。

中傷者一 あんたが女のところに揺りかごを運ぶのなら、

七八 (165)

女の財布に金を貯めておいたほうがいい、

あなた様の若いご親戚なのだから。

主教様、お願いです、これ以上悪いことは奴にさせないようになさいませ。

(22)

主教 ああ、マリアよ、悲しいことだ、なんということをしでかしたんだ！

お前のせいで、わしは恥ずかしい、

お前には聖なる考えがあつたではないか――変えてしまったのか？

年寄りのヨハネが、力づくで手籠めにしたのか？

あるいは、他の男を選んだばかりに、

その男のせいで、このような恥ずかしい状況に陥ったのか？

言ってごらん、こんな羽目に陥ったのは誰のせいか、

どのようにしてお前はそれまでの聖なる名声を失ってしまったのか？

(23)

マリア わたしの名前に傷がつかずにあればいいのですが。

わたしが生娘であることは神が証人です。

肉欲に耽ったり、魂に傷をつけることなど、

考えたことも、口にしたことも確かにありません。

(24)

律法学者一 お前の腹がどうしてそのような具合になったのか、

どのようにすればそんなに膨らんでしまうのか？

どこかの男が覆いかぶさったのでなければ、

そんなに大きく膨らんだりしないはず、これは確かだ。

(25)

律法学者二 聞きなさい、ヨセフ、怖いのは、

この誰の目にも明らかな罪をお前が犯し、

このように、この女を裏切ったことだ――

大いに胡麻播りをするか、なにかの邪な計略を弄した末にだ。

中傷者二 そうだ、実のところ、凶星だ――

俺が言いたかったところそこだ。

この女をどうやって物にしたのか、俺に言え、

自分が間男されたと認める前に。

(26)

ヨセフ わしにとって、あれは本当に純潔な生娘だ、

左七八

それに、あれも、わしのほうも、きれいな身であることに変わらない。

肉欲の一つも犯していない、

195

あれがわしに嫁いだから、ずうっとの間。

主教 われわれにとって、そうは見えないのだ。

先ずは、日を改めてわれわれに弁明するとして、

今は祭壇までまっすぐに進んで、復讐の水を飲んでみよ。

200

(27)

神の復讐の水の入った瓶がここにある。

これを飲むことで無実を証明することになろう。

これには神の掟が定める効能がある――

これを人が一口飲んで、

まっすぐに歩き、

この神殿の祭壇の周りを巡ると、

もし、一つでも罪があれば、

はつきりとその顔に現れるのだ。

(28)

お前が罪を犯したかどうか一緒に見てみよう。

われらの神の力を過小に評価して、大胆に振舞うな。

罪を犯していながら、犯していないように振舞うと、

お前は神を何倍も嘆かせることになるからな。

ヨセフ 初めに申し上げたとおり、わしは罪を犯してはいません。

全能の神が証人です。

主教 ならば、この飲み物を急いで手に持ち、

祭壇の周りを巡る用意をいたせ。

「ココデ、よせふハ水ヲ飲ミ、祭壇ヲ七回巡リナガラ言ウ。」

(29)

ヨセフ 従順な気持ちでこの飲み物を飲みます。

神に向かつて、わしには罪がないように祈ります。

主よ、あなたは全能ですので、

真実をお示しください、今この時に。「シタスラニ飲ム。」

この祭壇の周りを回ろう。

おお、慈しみ深い神よ、あなたの僕を助けてください。

わたしは罪を犯していませんので、この身を再び、

いまこの時、慈しみ溢れる御手でわたしを受け止めてください。

(30)

召喚吏 こやつは老いぼれてよく歩けないようだ、

周りを巡るのにぐずぐずして、時間ばかりかかっている！

両足を高く上げろ、つま先を前に出せ。

さもないと、どついてやるぞ。

中傷者二 さあて、あなたの鼻つつらに悪運が取り付け！

なんと、両足は一所懸命動いているのに進まない——足萎えのようだ！

脚を前に元気はつらつと繰り出したはずだ、

そこの若い娘とお遊びをした時には！

(31)

中傷者一 神にお願いする、こいつをいじめてやってくれ。

奴の脚は歳のせいで曲がってしまっているが、

この娘とダンスを踊った時には、

この老いばれは、ひどく元気であつたはず。

召喚吏 その時は、こいつは恍惚となつていて、

お遊びに元気も元気だった。

娘はお前のために精のつくポタージュを作ってくれなかったか、

頭の芯まで痺れるぐらいにナニをやらかす時には？

(32)

ヨセフ ああ、慈しみ深い神よ、今この時、わたしを助けてください、

この人たちはわたしに汚名を着せてました――

あれの脇腹も触ったことがないというのに。

きょうの日、世俗の恥辱からわたしを救ってください。

この祭壇の周りを七回、わたしの名誉を守るために、

巡り切りました。

誹謗されるのにふさわしいこの身であるなら

おお、正義の神よ、わたしの罪をあらわにしてください！

(33)

主教 ヨセフ、心を込めて、お前の主である神に感謝せよ、

神の深い慈しみによりお前は許された。

ここに、お前の無罪の宣告を記録しておこう――

お前はその女と戯れて罪を犯すことは一度もなかった。

だが、マリアのほうは、否定はできない――

お前が子を孕んでいることは目に明らかだ。

男がお前をさぞや親切に扱ったのだろう――、

夫に欺いて罪を犯したのはなぜだ？

(34)

マリア この世の男性とは間違いを犯したことは一度もありません。

神の御使いを待みに祈ります、

主教様の御前で罪が晴らされることを。

夫と同じように、すべての罪からきれいに離れております。

瓶を御手から取らせてください。

この場所で、主教様の御前で水を飲みましょう、

それから、祭壇の周りを七回巡りましょう、

神の慈しみを頼りに。

(35)

律法学者一 ご覧下さい、この大胆な恥知らずは、

神のお力に逆らつて、証明するつもりになっています。

神の復讐がその女を焼き尽したとしても、

女は夫を欺いた楽しさを口にすることはあるまい。

身ごもっていることは、われらの目に明らかだ――

お前の腹がわれらに向かつて告発している。

こんな苦しい状況に陥つてもなお、

人の謗りを無しですませた女は今までに一人としていない。

(36)

中傷者一 まったくもう、この女は寝ていたんだと思うぜ、

雪が降るというのに上掛けも掛けずに。

奴の口の中に雪片の一つが入り込んで、

奴の子宮で子供が膨れたという次第だ。

中傷者二 そういうことなら、気をつけな、娘さん、

これは皆にもう知られてしまったことだから――

子供が産まれる時にお日様が輝けば、

きつと、水に戻ってしまうぞ、

雪が元の水に還えるからだ。

律法学者二 いいか、神の高き力をからかつてはいけない。

無罪の宣言についてよく考えてみるのだ。

もし有罪なら、逃れることはできない。

正義の裁きをなされる神に心せよ、

復讐でもって、神がその裁断をお前に下すなら、

お前ばかりでなく、お前の親族すべてが恥を受けることになる。

実際にしでかした計り事を言うがいい、

神を嘆かせ、怒らせるよりも。

(37)

マリア その慈しみを信頼し、神を嘆かせるようなことはいたしません。

わたしは、思い、言葉、行いにおいても神の僕です。

穢れなき処女であると神が証明してくださいのように願います。

わたしには罪がないと断じてくださるようにな主様に願います。

主教 この世のすべてのものを造られた善き神に掛けて言う――

多くの徴をお前に神が示されるならば、

かつて一度としてないくらい罪の許しは贖られることになる、

どのようなものであれ報いをお前に与えることができれば、だがな。

(38)

さあ、瓶をしつかり持って、たつぷりと飲んでから、

祭壇の周りを巡りなさい。

マリヤ このような場合にこそ、この身を神に委ねます。

主よ、あなたの助けを待み、この水を一口飲みます。

〔ココデ、美シキ乙女ハ水ヲ一口飲ミ、祭壇ノ周リヲ巡ツテ、言ウ。〕

(39)

神よ、わたしは一度として男の人に汚されたことはありません。

左八〇

ずうっと純粹に処女性を守って暮らしてきました。

今日のこの日、あなたの聖なる慰めをお送りください――

ここにいらっしゃるすべての善き人々が

わたしの純潔を目にすることが出来ますように。

(40)

おお、慈しみ深い神よ、あなたはわたしを選んでくださいました、

わたしをあなたの母として、わたしからお生まれになられるように、

あなたのために清く保たれているこの幕屋であるわたしをお救いください。

そのわたしがいまや、咎められ、嘲られています。

天使ガブリエルが以前にわたしに告げられました、

あなたの善き意思があるから、わたしの子供になられると。

あなたの崇高さゆえに、わたしの信仰が無になりますように！

ああ、愛しき息子、おまえの処女聖母マリヤを

助けてくれるように祈ります。

(41)

主教 全能なる神、これはどういう意味なのでしょう、

神の水をみんな飲んだのに、

子供を孕んでいても、この女は美しく、清く、

汚点も、穢れもない。

わたしには想像もつきません。

女の罪と、罪深い生活を証明しようにも、

無罪の宣告によって公に明らかになったのは、

女が母であり妻であるのに清い生娘だということだ。

(42)

中傷者一 俺の父親の魂に掛けて言う、これは大陰謀だ。なぜなら、奴はあなたの親族だからだ。

飲み物は何かの邪まな狡猾さによって替えられたのだ、今回だけは恥を掻かさないように。

主教 わたしたちが不正をなしたと思っているのだから、また、二人を初めに誹謗したのがお前なのだから、お前の考えはあるにしても、他ならぬこの場で、同じものを、ここに在る皆の前で、飲んでもらうぞ。

(43)

中傷者一 主教様、善き信仰に掛けて、一息に飲みましょう、あの二人がみんな飲んでしまったのでなければ。

「ココデ、飲ムト、頭ニヒドイ痛ミヲ感ジテ言ウ。」

痛い、痛い！ ああ、俺の頭蓋骨が痛む！

ああ、頭に火がついたようだ。

ご慈悲を、善良なるマリアよ、俺は後悔している、これまでに言った呪いと嘘を。

マリア いまや、全能である天の神が、

その偉大な慈しみによって、今の気分の悪さを癒されることでしょう。

(44)

主教 われらは皆、この地面に膝を付き、

神の端女であるあなた様の慈しみを祈り求めます。

すべての呪いの言葉と言われなき恥辱にたいして。

善良なるマリアよ、われらをこの場所で許してください。

マリア 今や、神があなたがたのすべての罪をお許しになられ、

そしてまた、あなたがたのすべての中傷をお許しになられますように、

身分の上下に関わらずあなたがたが口にされたこと、

わたしを邪魔者扱いにし、汚濁に塗れさせたことを。

(45)

主教 今こそ、祝福された処女よ、われらは皆、あなたに感謝します、

あなたの善良なる心と、偉大な忍耐にたいして。

あなたをおうちの玄関先までお送りし、

高い崇敬の心であなたに奉仕いたします。

マリア あなたのご厚意に心から感謝します。

お願いですから、ご自分のおうちへお帰りになつてください、ここにいらつしやる皆様をお連れください。

350

わたしのほうは、この場所から動く心境にありません。

(46)

主教 それでは、乙女にして清らかな乙女よ、さようなら。

祝福された、神の真の端女よ、さようなら。

われらは皆、あなたに向かつて腰を深く折り、

この場にふさわしい態度で、あなたに暇乞いをいたします。

(47)

マリア 全能の神があなた方を見そなわすように！

左八一

高き主はもつとも力を持てる方なので、

あなた方が間違いを犯さないように生かしてくださいに違いありません、

天において神を目にすることが出来ますように。

(48)

ヨセフ いと高き主が天において崇められますように、

神には終わりのない慈しみが溢れているので、

神は真の証拠をお示しになられます、

360

355

真の僕である一人一人の証を。

喜び溢れる心を持って主を崇めるために、

ここにおいて、わしら二人は結び付けられた、

二人の無罪の宣告が与えられ、

いと高き慈しみによって、われらが清いことが証明されたこの場所において。

(49)

マリア 善き伴侶よ、本当に、神に深く感謝しています、

わたしたちの無罪宣告のためになされた、善なる慈しみにたいして。

わたしたちが清いということは広く知れ渡りました、

神の偉大な慰めのお力によって。〔感謝ヲ込メテ「あーめん」ト唱エル。〕

〔ここに「ヨセフとマリアの裁判」が終わり、「キリストのご生誕」へ続く。〕